

日本発生生物学会



会長：阿形 清和
(2014年1月1日現在)

- 1968年設立
- 会員数：約1,300名 (2014年6月現在)
- 〒650-0047
神戸市中央区港島南町2-2-3 理学研究所
発生・再生科学総合研究センター内
- Tel: 078-306-3072
- Fax: 078-306-3072
- E-mail: jsdbadmin@jsdb.jp
- URL: <http://www.jsdb.jp/>

本学会は発生生物学の進歩と普及に努めることを目的として設立されました。国際誌Development Growth & Differentiationを刊行し、また年1回の大会を開催しています。さらに、国際発生生物学会の構成学会として国際的にも活動しています。

日本微生物生態学会



会長：南澤 晃
(2014年6月1日現在)

- 1985年設立
- 会員数：約1,000名
- 〒113-8657
東京都文京区弥生1-1-1
東京大学大学院農学生命科学研究科
応用生命科学専攻 土壌微生物研究室内
日本微生物生態学会事務局
- Tel: 03-5841-5139
- Fax: 03-5841-8042
- URL: <http://www.microbial-ecology.jp/>

微生物生態学は環境微生物学のほか、微生物生理学、微生物系統進化学、微生物ゲノム科学、公衆衛生学、食品微生物学、環境バイオテクノロジーなどを網羅し、地球システム全体をその研究対象とする総合的学問である。微生物生態学会はそれらを包括する学会として設立された。学術集を年1回開催するほか、日本土壤微生物学会ならびに台湾微生物生態学会との共同編集により学術誌Microbes and Environments (IF=2.444)を年4回刊行する。

特定非営利活動法人 日本免疫学会



理事長：斉藤 隆
(2014年6月1日現在)

- 1970年設立
- 会員数：約4,597名 (2014年7月11日現在)
- 〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-6-2
原島三崎ビル2F
- Tel: 03-3511-9795
- Fax: 03-3511-9788
- E-mail: men-eki@s3.dion.ne.jp
- URL: <http://www.jsi-men-eki.or.jp/>

日本免疫学会は、生体防御と生命恒常性を司る免疫(学)の研究を進展させ、より広く世界に広めることを目指しています。年1回の学術集会の開催、日本免疫学会賞などの顕彰、学術誌 International Immunology やニュースレターの刊行、によって会員の交流促進と若手研究者の育成に積極的に取り組んでいます。さらに、サマースクールや「免疫ふしぎ未来」などの活動を通して、一般社会に対しても免疫(学)の重要性をアピールし、研究への理解を深めていただく努力をしています。

日本比較生理生化学会



会長：神崎 亮平
(2014年6月1日現在)

- 1978年設立
- 会員数：514名 (2014年6月26日現在)
- 〒153-8904
東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学先端科学技術研究センター
生命知能システム分野内
- Tel: 03-5452-5196
- Fax: 03-5452-5196
- E-mail: office@jscp.org
- URL: <http://jscp.org/>

本学会は、比較生理生化学および関連分野の学術研究を振興し、広範な生命現象の理解をはかることを目的としています。多様な生物が進化により獲得した環境に適応するしくみを、生物間の「比較」を通して理解することを目指しています。全国大会を年1回、他学会との合同シンポジウムなども随時開催しています。年4回学術雑誌「比較生理生化学」を発行するとともに、関連分野の出版事業、教育活動を積極的に推進し、広く社会に貢献することも目指しています。また、ホームページ上に関連分野のトピックスを平易に解説した「動物の生きるしくみ事典」や本学会員が研究材料とする様々な動物種などを公開し、当該分野の魅力を広く一般に紹介することにも取り組んでいます。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会



理事長：大隅 典子
(2014年6月1日現在)

- 1978年設立
- 会員数：14,041名 (2013年12月現在)
- 〒102-0072
東京都千代田区飯田橋2-11-5
人材開発ビル4階
- Tel: 03-3556-9600
- Fax: 03-3556-9611
- E-mail: info@mbsj.jp
- URL: <http://www.mbsj.jp/>

分子生物学は、生命現象を分子レベルで解明することを目指して、今日まで発展してきました。本学会は学問の新しい流れに大胆且つ柔軟に取り組み、形式より実質を重んじる気風を特徴に活動しています。分子生物学に関する研究・教育の推進、現代生物学の発展に寄与することを目的として、学術年会を年1回開催し、学会誌Genes to Cellsを年12回刊行しています。また2012年より、あらたな国際会議支援事業を開始しました。

公益社団法人 日本薬理学会



理事長：飯野 正光
(2014年6月1日現在)

- 1927年設立
- 会員数：4,902名 (2013年12月末日現在)
- 〒113-0032
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
- Tel: 03-3814-4828
- Fax: 03-3814-4809
- URL: <http://www.pharmacol.or.jp/>

平成24年1月に公益社団法人に移行し、事業活動や学会運営に一層の公益性が求められていることを踏まえて、次の活動を行っている。薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及、会員相互及び内外の関連学会との連携協力により、薬理学の進歩を図るため、年会、地方部会(年6回)、共催シンポジウム、セミナー、及び市民公開講座を開催し、学術誌Journal of Pharmacological Sciences及び日本薬理学雑誌を毎月発行している。また江橋節郎賞、及び若手を対象とする奨励賞等の顕彰を行っている。

日本比較内分泌学会



会長：竹井 祥郎
(2014年6月1日現在)

- 1975年設立
- 会員数：約450名
- 〒277-8564
千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所生理学分野内
日本比較内分泌学会事務局
- Tel: 04-7136-6202
- Fax: 04-7136-6206
- E-mail: hyodo@aori.u-tokyo.ac.jp
- URL: <http://www.jsce1975.jp/>

日本比較内分泌学会は、理学、農学、医学、薬学、化学など多様な分野の研究者が集い、わが国における基礎的な内分泌学の発展を担っている。これまで2回の国際学会を主催するとともに、毎年学術集会およびシンポジウムを開催し、学会誌「比較内分泌学」を年3回発行している。また、教育と社会貢献の一環として出版活動を行っており、ホルモンの生物学、内分泌器官のアトラス、ホルモンハンドブック等、多数を出版している。

日本分類学会連合



代表：村上 哲明
(2014年6月1日現在)

- 2002年設立
- 会員数：加盟学会25学会 (2014年6月現在)
- 〒192-0397
八王子市南大沢1-1 首都大学東京大学院
理工学研究科生命科学専攻内
- Tel: 042-677-2427
- Fax: 042-677-2421
- E-mail: antist@tmu.ac.jp
- URL: <http://ujssb.org/>

本連合は、日本国内の生物の分類に関わる学会の連合組織として、分類学全般に関する研究および教育を推進し、分類学分野の普及と発展に寄与することを目的に設立されました。加盟学会数は現在25です。ニュースレターの発行(年2回)のほか、毎年1月初旬に開かれる総会に合せて1または2つのシンポジウムを開催しています。またABS問題の説明会や国内の重要標本データベースの構築などでも主体的に活動しています。

生物科学学会連合 入会(加盟)のご案内

生物科学学会連合は生物科学に関連する学術団体の連合体で、その構成員(会員)は個人ではなく学協会および連合体です。
入会方法の詳細は、生物科学学会連合事務局へお問い合わせください。

生物科学学会連合

中西印刷株式会社 東京営業部内
〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-11
浜田ビル5階
Tel: 03-3816-0738 Fax: 03-3816-0766
E-mail: seikaren@nacoss.com

<http://www.nacos.com/seikaren/>

生物科学学会連合

The Union of Japanese Societies for Biological Science



2014 - 2015

ご挨拶



生物科学学会連合代表
浅島 誠

21世紀は生命科学又は生物科学の時代だと言われていています。そのような中で「生物科学」または「生物学」の発展のためにどのようなことを今、私達が現世代や次世代のためになすべきかについて考えています。生物学系学会が緩やかな結びつきのもと、全学会が平等な立場で連合を立ち上げています。国は日本を科学技術立国にするために「科学基本法」などをつくりましたが、大学や教育・研究現場における理科離れは進んできており、このままでは日本の教育、とりわけ「理科」そのものも危ういのが現状です。

一方、理科の分野においては「物理学会」や「化学会」のような大きな学会が存在し、それなりに政府や研究・教育に対しても意見を述べたり、お互いに協力して討議したりするだけの力をもっていました。1999年、いくつかの学協会の協力もあって「生物科学学会連合」は発足する運びとなり、「生物科学学会連合」はその後、大学等の法人化や政府の科学政策の変更などにより、もっと強い意見の表出が求められるようになってきました。

この4年間の中では、生科連の果たしてきた役割もやっとなり、科学者や研究者、そして生物科学に携わる皆様にも可視化

加盟団体一覧 (五十音順)

- | | |
|-----------|------------|
| 個体群生態学会 | 日本生態学会 |
| 日本味と匂学会 | 日本生物教育学会 |
| 日本遺伝学会 | 日本生物物理学会 |
| 日本宇宙生物科学会 | 日本生理学会 |
| 日本解剖学会 | 日本蛋白質科学会 |
| 日本細胞生物学会 | 日本動物学会 |
| 日本時間生物学会 | 日本発生生物学会 |
| 日本実験動物学会 | 日本比較生理生化学会 |
| 日本植物学会 | 日本比較内分泌学会 |
| 日本植物生理学学会 | 日本微生物生態学会 |
| 日本進化学会 | 日本分子生物学会 |
| 日本神経化学会 | 日本分類学会連合 |
| 日本神経科学学会 | 日本免疫学会 |
| 日本生化学会 | 日本薬理学会 |

(2014年6月現在)

できるものができつつあります。

その一つは昨年(2013年)、政府が突然発表したいわゆる「日本版NIH」構想についての対応です。この新構想では文科省の科学研究費(科研費)からも数百億円を元手にしようとした。生科連はこの動きに「深い懸念」の声明と、記者会見を開きました。このこともあって科研費には手を付けられないことになりました。基礎生物学やボトムアップ型研究が我が国では、科研費によって支えられているところが多いです。科研費の充実と公費の増大は今後も大きな課題です。

また、現在、「新課程の高校の生物」での用語の統一、「ボスドク問題と雇用」についてのワーキンググループを設置して、活動しています。

他にこの生科連の規約の改定、国際生物学連合(IUBS)、国際生物学オリンピック(IBO)、日本学術会議との協力関係など、様々な問題に取り組み着実に成果を上げつつあります。

生科連がお互いに忌憚のない意見や討議を通じて生物学の一層の発展に寄与することを願っております。御協力と御指導をよろしくお願い申し上げます。

個体群生態学会



会長：斉藤 隆
(2014年1月1日現在)

- 1961年設立
- 会員数：360名
- 〒603-8148
京都市北区小山西花池町1-8
(株)土倉事務所内 個体群生態学会事務局
- Tel: 075-451-4844
- Fax: 075-441-0436
- E-mail: bwa36248@nifty.ne.jp
- URL: <http://www.population-ecology.jp/>

生物の個体群に関係した生態学や進化学の発展をはかるため、大会を年1回開催。日本の生態学分野の英文誌としてもっとも歴史が長く、国際的評価も高いPopulation Ecologyを年4回発行。若手研究者の顕彰などにも取り組んでいる。

日本味と匂学会



会長：宮本 武典
(2014年6月1日現在)

- 1991年設立
- 会員数：830名
- 〒112-8681
東京都文京区目白台2-8-1
日本女子大学理学部生体情報科学研究室
- Tel/Fax: 03-5981-3668
- E-mail: jasts@fc.jwu.ac.jp
- URL: <http://jasts.com>

本学会は、前身である味と匂のシンポジウムが1967年に発足して以来、味と匂に関する科学の広範な研究の進展を図るため、学術大会の年1回開催、学術講演会/ワークショップの随時開催、日本味と匂学会誌の年3回刊行、メーリングリストの運用等により会員の交流を促進し、顕彰事業などを通して若手研究者の育成にも積極的に取り組んでいる。また、アジア地区連携シンポジウムを開催するなど、国際化の促進をはかっている。

